

# 平成24年度事業報告書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日)

一般財団法人高度技術社会推進協会（TEPIA）は、平成24年度から一般財団法人移行後の事業を開始した。

TEPIAは、基本財産運用環境の悪化や景気の低迷等の影響による施設賃貸事業収入の減少により厳しい経営環境が継続する中、事業の選択と集中による事業運営の効率化を進めるとともに、東日本大震災の教訓を踏まえTEPIA館の耐震性を精査した。

展示事業においては、エネルギー・環境や医療・健康に重点を置いた展示を行った。また、情報リテラシー事業においては、パソコンを対象とする講座を縮小し、社会に急速に普及したスマートフォンとタブレットのリテラシー向上に事業の重点を移す準備を行った。

平成24年度の主な事業内容は以下のとおりである。

## 1. 展示事業

展示事業においては、先端技術館@TEPIAを運営し、先端技術等の常設展示を実施した。当初計画した原理・解説模型の配備を完了し、来館者にわが国の先端技術や課題をより適切に理解できるよう展示方法の工夫・改善を行うとともに、次年度展示の企画及び設置・収集の準備作業等を実施した。

### (1) 平成24年度先端技術館@TEPIAの展示運営

① エントランスからプロログ展示を経てメイン展示場に至る動線沿いの展示を視認性と注目度向上の観点から改良した。また、テーマ展示では、自動車と省エネルギーに焦点をあてた日本型スマートコミュニティ・モデルを紹介し、トピックス展示として、キッズデザイン賞受賞製品の展示を行った。

② メイン展示は、例年のように5領域13技術分野（クラスター）に体系化し、プロログ展示、テーマ展示、トピックス展示と合わせて107製品（内66が新展示品）を体験型展示の比重を高

めるよう収集展示した。特に、

- ・コミュニケーションロボット「チャピット」
  - ・薄型軽量の静電型スピーカー
  - ・シースルー型ヘッドマウントディスプレイ
  - ・より自然な発声を補助する電子式人工喉頭
- などが注目を集めた。

- ③今年度の先端技術館@TEPIAは、平成24年4月11日の一般公開から平成25年3月3日までの273日間展示を実施し、総入場者数は31,138名（1日平均入場者数114名）であった。なお、外国人入場者は世界約50カ国から777名の来館があった。
- ④併催イベントに関しては、夏休みに「夏休み！実験教室」を行い、230名の参加者があった。また、1月の「サイエンスショー@TEPIA 冬」に、553名の参加者があったほか、初めて2月開催を試みた「親子工作教室」にも178名の参加者があった。
- ⑤中学・高校の生徒の来館を促すため、中学及び高校教科書に関連する展示物を教師に紹介するホームページの改訂を行った。

## (2) 平成25年度先端技術館@TEPIAの展示準備

平成24年度先端技術館@TEPIAの常設展示を運営する傍ら、平成25年度の展示準備を実施した。平成25年度展示の主な更新点は以下のとおりである。

- ①平成25年度のテーマ展示は、情報技術を活用した環境、地域、人に優しい街づくりを「スマートコミュニティ最前線！」として、その構成技術と共に紹介。
- ②エピローグ展示においては、先端技術の開発や普及が社会的要請や制度とどのように関係しているかを来館者にわかりやすく訴求、発信するため、メイン展示の5つの領域に係わる日本の諸課題を新たにイラスト方式のディスプレイで総括的に説明。
- ③メイン展示については、今後の日本にとってとりわけ重要な課題である「環境とエネルギー・資源」、「健康と医療」の領域を重点的に展示するため、展示領域とクラスターを再整理。

④スマートフォンを活用し、展示の案内、説明を行うためのシステム開発、導入方法の検討。

### (3) 展示審議委員会

展示事業に対する助言を得るため、平成25年2月に展示審議委員会を開催した。

## 2. ハイテク情報サービス事業

機械情報産業の先端技術を中心とする映像情報を収集・制作するとともに、映像情報の発信基地としての役割の効率的な強化を図った。

### (1) ビデオライブラリーの運営

映像ソフトの収集と蓄積、その活用を継続するとともに、映像情報配信手法の効率化を実施した。

①映像作品の収集に関し、本年度は自動車産業技術と地域産業関連の映像を中心に収集し、ビデオライブラリーで公開した。

館内閲覧スペースについては、利用実績等を勘案し個別視聴機器を3台(8席)に縮小した。また、臨場感の高いヘッドマウント・ディスプレイを用いた3D映像の体験視聴を試行した。

②ビデオ・シアターでは、ロボット関連の作品に加え、山中伸弥氏のノーベル生理学・医学賞受賞に関連した「再生医療」分野、竣工直後の「東京スカイツリー」、小惑星探査機「はやぶさ」に関連した宇宙分野など、話題性のある映像作品を中心に上映した。

③インターネットによる配信方式を館内サーバからクラウド型サービスに移行し、効率的な映像配信と情報提供内容の充実を図った。

### (2) 映像及びデジタル・コンテンツの制作

「第5回ロボット大賞」(経済産業省及び一般社団法人日本機械工業連合会主催)を題材にした映像を自主制作したほか、展示事業の紹介映像、記録映像等を制作し、TEPIAホームページだけでなく、YouTube等の動画サイトも活用しプロモーション活動を行った。

### (3) 講演会の開催

平成24年度は、日米関係、エネルギー分野及び研究開発分野を取り上げ、第一線の専門家を招き、日本の立脚点や最先端の活動をグローバルな視点から論じる講演会を3回開催し、機械情報産業関係の企業及び団体の役職員並びに関係有識者など延べ271名が参加した。

#### ①平成24年7月6日開催

講師：エアバス・ジャパン株式会社

元代表取締役社長兼 CEO グレン・S・フクシマ 氏

講演テーマ：日米関係の将来と日本の友人へのメッセージ

#### ②平成24年11月1日開催

講師：国際エネルギー機関

前事務局長 田中 伸男 氏

講演テーマ：中東情勢とポスト福島のエネ戦略

#### ③平成25年1月22日開催

講師：株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所

シニアリサーチャー 桜田 一洋 氏

講演テーマ：再生医療を再考する

また、次年度から講演会の参加者を広く一般から募集することとし、Webを介しての受付システム及び講演記録の映像配信システムを準備した。

### 3. 情報リテラシー事業

近年、情報端末機器の中心はパソコンからスマートフォンなどの最新の携帯情報端末に移りつつあることから、平成24年度は一般向けパソコンセミナーを6月までの3カ月間実施して終了、身体障害者向けパソコンセミナーも開催回数を縮小した。一方、年度後半において平成25年度から新たに開始するスマートフォンとタブレットのセミナー実施の準備作業を行った。

#### (1) 一般向けパソコンセミナー

主として高齢者及び主婦を対象に、インターネットに重点を置き

た Windows7 対応講座を 4 月～6 月に集中実施した。

(2) 聴覚障害者向けパソコンセミナー

① 初心者向け体験講座

年間 5 回実施。

② 実用講座

生活に役立つパソコンセミナーを 4 回、仕事に役立つパソコンセミナーを 1 回合わせて年間 5 回実施。

③ 出張講座

宇都宮市と前橋市の 2 カ所で開催。

(3) 視覚障害者向けパソコンセミナー等

① 指導者入門・養成講座

視覚障害者にパソコン操作を指導する人材の育成を図る指導者入門・養成講座を東京と宇都宮市で各 1 回実施。応用編の Word・Excel 指導者養成講座は東京で 1 回実施（長野県塩尻市で中継）。

② 遠隔講師養成講座

遠隔で指導ができる人材の育成を図るパソコン遠隔講師養成講座を、東京、札幌市、苫小牧市など 5 地域をネットワークで結んで 1 回実施。

③ 視覚障害者向けブース

WindowsXP と Windows 7 対応を継続し、スタッフのサポートにより、各種ソフトの体験指導と、教材に基づく指導を行った。

(4) その他

事業実施場所を地下 1 階から 2 階に移し、ビデオライブラリースペースと併存する形とした。

また、急速に社会に普及しているスマートフォンとタブレットの講座を平成 25 年度から実施すべく、指導方法、カリキュラム、テキスト等の検討を年度後半で行った。

4. 調査・企画・広報事業

(1) 調査研究事業

わが国の新しい動作支援福祉機器の技術開発の動向について、「国

際福祉機器展 2012」及び「Japan Robot Week2012」において、中小・中堅企業の製品を中心に情報収集と評価を行った。またこの情報を、平成 25 年度の「生活支援ロボット」、「ヘルスケアと福祉機器」クラスター展示品目選定に活用した。

## (2) 知的財産研究振興事業

知的財産研究の振興を図るため、日本知財学会の協力を得て以下の事業を実施した。

- ①知的財産の創造・権利化・活用に寄与し、又は将来寄与することが期待される個人の業績を評価する学術奨励賞事業を実施、2 件を受賞と決定し、平成 24 年 6 月 22 日に表彰。
- ②知的財産に関する優れた学術研究計画に対する助成事業を実施、2 件を助成対象とし平成 24 年 11 月 28 日に表彰、平成 24 年 12 月に助成金を交付。
- ③平成 23 年度助成の対象者 3 名による研究成果を、平成 25 年 3 月に T E P I A 知的財産学術研究助成成果報告書として集成し、業界団体等に配布するとともに、T E P I A ホームページに掲載。

## (3) 広報事業

一般財団法人化に伴い、新法人名及び事業内容を広く認知せしめるため、パンフレット類の様式統一など T E P I A の普及広報資料の改訂・作成を実施した。また、ホームページを随時拡充している。

## 5. T E P I A 施設の賃貸

T E P I A 施設（3 階エキシビジョンホール、4 階 T E P I A ホール、4 階会議室、地下 1 階会議室及び駐車場等）の賃貸事業については、景気の低迷等の影響により施設利用が近年減少傾向を辿っており、平成 24 年度も前年度実績に比べて 5 % 程度の減となった。

## 平成24年度事業を踏まえた今後の課題

TEPIAは、厳しい経営環境が継続する中、今後とも事業の選択と集中による事業運営の効率化をさらに進める必要がある。安定的な事業運営を維持しつつ、先端技術等の普及啓発のための各種情報発信機能の向上をさらに図ることとし、平成25年度以降、具体的に以下のような諸点を重点課題として事業運営に取り組んでいくこととする。

### 1. 展示事業

展示事業は、わが国の最新技術や先端的製品を社会の諸課題に焦点をあてて解り易く紹介する中核的事業であるが、今後、将来の新たな価値を創造していく担い手である小、中、高校生やその関係者を明確なターゲットとする展示の工夫や、併催イベントを含めたPR等の積極的な働きかけ・情報発信機能の強化を図る。

### 2. ハイテク情報サービス事業

ハイテク情報サービス事業については、今後、展示事業との連携、一体的な運営を検討し、相乗効果を出す方向で事業内容の改善を図る。

### 3. 講演会開催

講演会は、わが国将来の重要課題であるエネルギーや先端技術の分野に焦点をあてて実施するとともに、広くこれらの分野の課題を理解してもらうため、一般からの参加募集や講演内容のTEPIAホームページ上での公開に積極的に取り組んでいく。

### 4. 情報リテラシー事業

情報リテラシー事業は、近年、情報端末機器の中心がパソコンからスマートフォンなどの最新の携帯情報端末に移りつつあることを踏まえ、今後これらの携帯情報端末の利用拡大が求められている中高年をターゲットとして、平成25年度からスマートフォンとタブレットの講座を展開する。

### 5. TEPIA施設の賃貸

TEPIA施設の賃貸については、景気の動向に連動していることを踏まえ、柔軟な営業戦略のもとで、施設の稼働率の向上や賃貸事業収入の増加を図る。

#### 6. 耐震性向上等の総合的な安全性向上対策と将来像の検討

耐震補修工事などTEPIA利用者の安全性向上対策を実施するとともに、予想される神宮外苑地区再整備計画に向け、TEPIA事業の在り方並びにTEPIAの将来の姿について抜本的な検討を行う。